

土工数量計算書

土工数量集計表			①	②	③							昼間 合計	改め
			耐震補強 継手 車道39型 DP=1.3m	耐震補強 継手 車道87型 (県道) DP=1.3m	耐震補強 継手 歩道13型 (県道) DP=1.3m								
舗装版切断工	t=5cm	m	324.0									324.0	320
舗装版切断工	t=19cm	m		36.0								36.0	40
舗装版切断工	t=3cm	m			40.0							40.0	40
舗装版取壊工 0.20BH	t=10cm以下	m ²	108.0		16.0							124.0	124
舗装版取壊工 0.35BH	t=15cm~40cm	m ²		12.0								12.0	12
機械掘削工	0.20BH	m ³	172.5	17.5	25.9							215.9	220
埋戻工(粒状改良土)	0.20BH	m ³		9.3	24.3							33.6	34
埋戻工(発生土)	0.20BH	m ³	135.8									135.8	140
残土処分工	発生土	m ³	21.6	17.5	25.9							65.0	65
残土処分工	AS	m ³	5.4	2.3	0.5							8.2	8
下層路盤工	再生切込碎石 t=19cm	m ²	108.0									108.0	108
下層路盤工	再生切込碎石 t=38cm	m ²		12.0								12.0	12
路盤工	再生切込碎石 t=10cm	m ²			16.0							16.0	16
上層路盤工	再生粒調碎石 t=15cm	m ²	108.0									108.0	108
上層路盤工	再生粒調碎石 t=42cm	m ²		12.0								12.0	12
表層工(車道)	再生密粒度アスコン t=5cm	m ²	108.0									108.0	108
基層工(車道)	改質Ⅱ型粗粒度アスコン t=7cm	m ²		12.0								12.0	12
中間層工(車道)	改質Ⅱ型粗粒度アスコン t=7cm	m ²		12.0								12.0	12
表層工(車道)	改質Ⅱ型密粒度アスコン t=5cm	m ²		12.0								12.0	12
表層工(歩道)	再生密粒度アスコン t=3cm	m ²			16.0							16.0	16

車道39型
 耐震補強継手
 DP φ 150mm DP=1.3m

①

計算条件	管種・管径	DIP φ 150		機械掘削	1.620	m	
	舗装版厚	0.05	m	機械埋戻	1.280	m	発生土
	管呼び径	0.150	m	路盤	0.19	m	下層路盤
	管外径	0.169	m	路盤	0.15	m	上層路盤
	掘削幅	1.00	m	AS	0.05	m	
掘削延長	108.00						108.00 m
舗装版切断工 t=5cm	108.00	×	2	+	1.00	×	108 = 324.0 m
舗装版取壊工 As t=10cm以下	108.00	×	1.00				= 108.0 m ²
機械掘削工	(1.00	×	1.620	-	0.169	² × π ÷ 4) × 108.00 = 172.5 m ³
埋戻工 (発生土)	(1.00	×	1.280	-	0.169	² × π ÷ 4) × 108.00 = 135.8 m ³
残土処分工(発生土)	172.50	-	発生土 135.80	÷	0.9		= 21.6 m ³
残土処分工(AS)	108.00	×	0.05				= 5.4 m ³
下層路盤工 再生切込碎石 t=19cm RC-40	108.00	×	1.00				= 108.0 m ²
上層路盤工 再生粒調碎石 t=15cm RM-40	108.00	×	1.00				= 108.0 m ²
表層工 再生密粒度アスコン t=5cm PK-3	108.00	×	1.00				= 108.0 m ²

車道87型(県道)

耐震補強継手

DP φ 150mm DP=1.3m

②

計算条件	管種・管径	DIP φ 150		機械掘削	1.480	m	
	舗装版厚	0.19	m	機械埋戻	0.800	m	改良土
	管呼び径	0.150	m	路盤	0.38	m	下層路盤
	管外径	0.169	m	路盤	0.30	m	上層路盤
	掘削幅	1.00	m	AS	0.19	m	
掘削延長	12.00						12.00 m
舗装版切断工 t=15cm~30cm	12.00	×	2	+	1.00	×	12 = 36.0 m
舗装版取壊工 As t=15cm~40cm	12.00	×	1.00				= 12.0 m ²
機械掘削工	(1.00	×	1.480	-	0.169	² × π ÷ 4) × 12.00 = 17.5 m ³
埋戻工(改良土)	(1.00	×	0.800	-	0.169	² × π ÷ 4) × 12.00 = 9.3 m ³
残土処分工(発生土)	17.50	-	発生土 0.00	÷	0.9	= 17.5 m ³	
残土処分工(AS)	12.00	×	0.19				= 2.3 m ³
下層路盤工(4層) 再生切込碎石 t=38cm RC-40	12.00	×	1.00				= 12.0 m ²
上層路盤工(3層) 再生粒調碎石 t=30cm RM-40	12.00	×	1.00				= 12.0 m ²
基層工 改質Ⅱ型粗粒度アスコン t=7cm PK-3	12.00	×	1.00				= 12.0 m ²
中間層工 改質Ⅱ型粗粒度アスコン t=7cm PK-4	36.00	×	0.00				= 0.0 m ²
表層工 改質Ⅱ型密粒度アスコン t=5cm PK-4	12.00	×	2.00				= 24.0 m ²

歩道13型(県道)

耐震補強継手

DP φ 150mm DP=1.3m

③

計算条件	管種・管径	DIP φ 150		機械掘削	1.640	m	
	舗装版厚	0.03	m	機械埋戻	1.540	m	改良土
	管呼び径	0.150	m	路盤	0.10	m	路盤
	管外径	0.169	m				
	掘削幅	1.00	m	AS	0.03	m	
掘削延長	16.00						16.00 m
舗装版切断工 t=15cm~30cm	16.00	×	2	+	1.00	×	8 = 40.0 m
舗装版取壊工 As t=10cm以下	16.00	×	1.00				= 16.0 m ²
機械掘削工	(1.00	×	1.640	-	0.169	²
		×	π	÷	4)	×
							16.00 = 25.9 m ³
埋戻工(改良土)	(1.00	×	1.540	-	0.169	²
		×	π	÷	4)	×
							16.00 = 24.3 m ³
残土処分工(発生土)	25.90	-	発生土 0.00	÷	0.9		= 25.9 m ³
残土処分工(AS)	16.00	×	0.03				= 0.5 m ³
下層路盤工(1層) 再生切込碎石 t=10cm RC-40	16.00	×	1.00				= 16.0 m ²
表層工 再生密粒度アスコン t=3cm PK-3	16.00	×	1.00				= 16.0 m ²

導水管布設費

材 料 調 書

導水管材料表

種別	埋設シート	耐震補強継手	フランジ補強継手	全周型フランジ補強継手
管径				
A形・K形 φ150	136.0	97	1	2
計	3巻			
管種・口径	メカニカル 継手工			埋設シート工
A形・K形 φ150	100			136.0
				136.0

耐震補強継手設置数と土工掘削箇所数

DIP φ 150mm					
種別	設置数	掘削箇所数	舗装道(県道)	舗装道(県歩道)	舗装道(市道)
直管	62	68	6	8	54
曲管11 1/4°	3				
曲管22 1/2°	2				
曲管45°	8				
曲管90°	2				
継輪	20 (10)				
フランジ	3				
合計	100	68	6	8	54

※()の数値は、継輪数である。

継輪は受口が2口のため、継輪1個に対して耐震補強継手を2個設置とする。
掘削箇所数は、同一掘り山箇所があるため設置数と一致しない。(設計図参照)

埋設シート算出表

管 径	GX φ 150mm			計
掘削延長	136			
材料長	136			136.0

設計値	136.0			136.0
-----	-------	--	--	-------

3巻
巻/50m

土留材集計表

	土留材	規格	施工箇所数(箇所)	施工延長(m)	矢板賃料(円)	支保材賃料(円)	賃料合計	重量(t)	備考
①	アルミ矢板土留	H=2.0m	68	136	42,120	25,440	67,560	0.395	
合計				136.0	42,120	25,440	67,560	0.395	

※耐震補強継手施工日進量4箇所/日(8m/日) 市道54箇所 県道(車道)6箇所 県道(歩道)8箇所 合計68箇所
矢板等の使用量は、1日あたり2箇所を転用していくものとする。

①条件	矢板材	W=0.333m H=2.000m t=0.040m
	腹起し材	W=0.115m H=2.000m t=0.080m
	切梁材	L=1.000m-(0.040m+0.080m)×2=0.760m

